

(第1号様式)

## プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット<sup>®</sup>認証申請書

\*\*\* プロジェクト未承認 \*\*\*

ジャパンブルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 白老水産海洋協議会

住所：北海道白老郡白老町大町1丁目1番1号

氏名：白老町長 大塩 英男



Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	北海道白老町 いぶり海岸の人工リーフにおける藻場つくりと漁業振興

プロジェクト区分 (複数選択可)	人工基盤 吸収源の新たな創出 吸収源の回復、維持、劣化抑制
プロジェクト情報	<p>令和6年3月、水産資源の増殖及び品質向上に必要なコンブ類及び海藻類等の藻場を保全・拡大し、長期的かつ持続的な資源及び品質の確保に資すること、並びに藻場の役割や保全・拡大の重要性について地域へ啓発し、環境教育をととして藻場を保全する意識の継続・浸透を図ることを活動目的とした、『白老水産海洋協会』を設立した。その構成メンバーは、いぶり中央漁業協同組合、公益社団法人北海道栽培漁業振興公社、白老町環境町民会議、白老町である。</p> <p>北海道開発局室蘭開発建設部が平成12年度から白老町の日の出町～高砂町沖合（白老地区）で人工リーフの造成工事を進めている。人工リーフには、コンクリートブロックに海藻類が繁茂しやすいよう溝がつけられた水産協調型のブロックが採用され、造成後から自然にミツイシコンブのほか、ナンブワカメ、スジメ、チガイソ、ウガノモク等の海藻類が生え、多様性に富んだ生態系となっている。</p> <p>いぶり中央漁業協同組合は、漁業権が設定されている海域での活動について、持続可能な生産を目指して、人工リーフでのウニの漁獲（間引き採取：海藻類はウニの餌となる）を平成20年から実施しており、ウニの除去により人工リーフに付着する海藻類の保全（維持管理）、すなわちCO2吸収量の維持・増加に寄与するだけでなく、漁獲したウニの販売による地域の収益の拡大を実現している。</p> <p>（公社）北海道栽培漁業振興公社は、ウニ間引き採取や藻場保全に関し、漁協への助言・活動への協力をしているほか、環境学習活動も行っている。</p> <p>白老町環境町民会議は、環境学習活動を行っており、当該海域の清掃活動や海岸に係る環境教育を通して、白老町の環境保全と創造に寄与している。</p> <p>白老町は、白老町環境町民会議の活動を支援している。また、白老町では「白老町地球温暖化対策実行計画（平成20年4月）」を策定しており、温室効果ガス削減の活動を支援している。</p> <p>これらのプロジェクト実施者の自主的かつ連携した取組の継続により、人工リーフにおける藻場の維持に寄与していると判断できる。</p>
クレジット取得理由	<p>今後の藻場の維持や拡大のための保全活動や藻場のモニタリング活動の継続、プロジェクト実施者間の自立した体制強化にあたっては活動費用の不足が懸念される。</p> <p>これらのことから、当該海域の人工リーフは Jブルークレジットの対象になると判断し、クレジットで得られた収益を今後の活動費用に補填するため、今回申請を行う。</p>
クレジット取得後の計画や見通し	<p>今回取得するJブルークレジットは、胆振海岸におけるブルーカーボン拡大を目指し以下の取組に活用する計画である。</p> <p>○『クレジット化収入をモニタリングや計測等に活用していき、自立したシステム構築を目指す。』</p> <p>○『将来的にクレジット化収入をウニ駆除およびそれ以外の藻場再生、保全に活用し、さらなるCO2吸収量の増加につなげていく。』</p>
申請対象期間に実施した活動の概要	<p>プロジェクト概要と同様。</p> <p>なお、船舶の使用については、方法論1～5の項目を全て一緒に調査したため、方法論1のチガイソのみに入力した。</p>
プロジェクト実施開始日	平成20年～現在

項目1	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】 海藻                  【藻場】 コンブ場                  【構成種】 チガイソ</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年04月01日～2024年03月31日
	③対象とする面積	<p>【面積】                  5.35567(ha)                  【面積の算定根拠】                  【面積】 5.36(ha) 【面積の算定根拠】 人工リーフ法面の海藻類の実勢面積は、海藻類分布範囲を設計図面に照らし合わせることで推定した(添付資料P28参照)。 【面積の資料】                  添付資料(面積・吸収係数に関する資料1)_BC量-海藻種別.pdf                  【面積の資料】                  02_添付資料(面積・吸収係数に関する資料2)_写真票(修正0913).pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】                  7.24                  【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】                  各人工リーフの付着状況調査結果(潜水による目視確認、コドラート調査による各海藻類の湿重量の計測結果)を基に平均値として算出(添付資料P23～27参照:面積の算定根拠と同様の資料)                  【単位面積あたりの湿重量に関する資料】                  02_添付資料(面積・吸収係数に関する資料2)_写真票(修正0913).pdf</p> <p>【含水率】                  87.8(%)                  【含水率の算定根拠】                  参考値:横浜ブルーカーボン事業におけるカーボン・オフセットの運用及び拡大に関する検討、山田ら(2017)P9表13「生コンブ」の含水率を参照                  【含水率に関する資料】                  02_添付資料(面積・吸収係数に関する資料2)_写真票(修正0913).pdf</p>

<p>項目1</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.9 【P/B比の算定根拠】 参考値：第3版磯焼け対策ガイドライン、水産庁（2021）P11コラム2-2-2表1コンブ類の平均値（1.5～2.3）を参照 【P/B比に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【炭素含有率】 30(%) 【炭素含有率の算定根拠】 参考値：ブルーカーボン 浅海におけるCO2隔離・貯留とその活用．堀・桑江（2017）P87表3-1を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen &amp; Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0285 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p>
------------	--------------	---

項目1	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 1.122(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 95%</p> <p>(面積：5.35567(ha)×評価：95%)</p> <p>【吸収係数の評価】 90%</p> <p>(吸収係数：0.20962×評価：90%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 潜水土船 (206kW / 280PS 程度)</p> <p>【台数】 1隻</p> <p>【稼働時間】 9.00(h)</p> <p>【出力】 206.00(kW)</p> <p>【燃料の種類】 軽油</p> <p>【CO2排出量】 0.516(t-CO2)</p>

項目1	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 人工リーフ造成前をベースラインとして設定する。人工リーフの周辺は砂地盤であり、人工リーフ造成前は、ミツイシコンブ等の海藻類の生育繁殖は確認されていないため、ベースラインを0t-CO2/年とする。</p> <p>【資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.443(t-CO2)

項目2	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】ワカメ</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年04月01日～2024年03月31日
	③対象とする面積	<p>【面積】 5.35567(ha) 【面積の算定根拠】 【面積】 5.36(ha) 【面積の算定根拠】 人工リーフ法面の海藻類の実勢面積は、海藻類分布範囲を設計図面に照らし合わせることで推定した（添付資料P28参照）。【面積の資料】添付資料（面積・吸収係数に関する資料1）_BC量-海藻種別.pdf 【面積の資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 11.18 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 各人工リーフの附着状況調査結果（潜水による目視確認、コドラート調査による各海藻類の湿重量の計測結果）を基に平均値として算出（添付資料P23～27参照：面積の算定根拠と同様の資料） 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【含水率】 87(%) 【含水率の算定根拠】 参考値：横浜ブルーカーボン事業におけるカーボン・オフセットの運用及び拡大に関する検討、山田ら（2017）P9表13「生コンブ」の含水率を参照 【含水率に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p>

<p>項目2</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.3 【P/B比の算定根拠】 参考値：第3版磯焼け対策ガイドライン、水産庁（2021）P11コラム2-2-2表1コンブ類の平均値（1.5～2.3）を参照 【P/B比に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32.7(%) 【炭素含有率の算定根拠】 参考値：ブルーカーボン 浅海におけるCO2隔離・貯留とその活用．堀・桑江（2017）P87表3-1を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen &amp; Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p>
------------	--------------	---

項目2	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 1.366(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 95%</p> <p>(面積：5.35567(ha)×評価：95%)</p> <p>【吸収係数の評価】 90%</p> <p>(吸収係数：0.255199×評価：90%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目2	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 人工リーフ造成前をベースラインとして設定する。人工リーフの周辺は砂地盤であり、人工リーフ造成前は、ミツイシコンブ等の海藻類の生育繁殖は確認されていないため、ベースラインを0t-CO2/年とする。</p> <p>【資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	1.168(t-CO2)

項目3	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】 海藻  【藻場】 コンブ場  【構成種】 スジメ</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年04月01日～2024年03月31日
	③対象とする面積	<p>【面積】  5.35567(ha)  【面積の算定根拠】  【面積】 5.36(ha) 【面積の算定根拠】 人工リーフ法面の海藻類の実勢面積は、海藻類分布範囲を設計図面に照らし合わせることで推定した（添付資料P28参照）。 【面積の資料】 添付資料（面積・吸収係数に関する資料1）_BC量-海藻種別.pdf  【面積の資料】  02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】  35.07  【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】  各人工リーフの付着状況調査結果（潜水による目視確認、コドラート調査による各海藻類の湿重量の計測結果）を基に平均値として算出（添付資料P23～27参照：面積の算定根拠と同様の資料）  【単位面積あたりの湿重量に関する資料】  02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【含水率】  87.8(%)  【含水率の算定根拠】  参考値：横浜ブルーカーボン事業におけるカーボン・オフセットの運用及び拡大に関する検討、山田ら（2017）P9表13「生コンブ」の含水率を参照  【含水率に関する資料】  02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p>

<p>項目3</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.9 【P/B比の算定根拠】 参考値：第3版磯焼け対策ガイドライン、水産庁（2021）P11コラム2-2-2表1コンブ類の平均値（1.5～2.3）を参照 【P/B比に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【炭素含有率】 30(%) 【炭素含有率の算定根拠】 参考値：ブルーカーボン 浅海におけるCO2隔離・貯留とその活用．堀・桑江（2017）P87表3-1を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen &amp; Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0285 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p>
------------	--------------	---

項目3	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 5.438(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 95%</p> <p>(面積：5.35567(ha)×評価：95%)</p> <p>【吸収係数の評価】 90%</p> <p>(吸収係数：1.01538×評価：90%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目3	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 人工リーフ造成前をベースラインとして設定する。人工リーフの周辺は砂地盤であり、人工リーフ造成前は、ミツイシコンブ等の海藻類の生育繁殖は確認されていないため、ベースラインを0t-CO2/年とする。</p> <p>【資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	4.649(t-CO2)

項目4	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】コンブ場 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2023年04月01日～2024年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 5.35567(ha) 【面積の算定根拠】 【面積】 5.36(ha) 【面積の算定根拠】 人工リーフ法面の海藻類の実勢面積は、海藻類分布範囲を設計図面に照らし合わせることで推定した（添付資料P28参照）。【面積の資料】添付資料（面積・吸収係数に関する資料1）_BC量-海藻種別.pdf 【面積の資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 54.82 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 各人工リーフの付着状況調査結果（潜水による目視確認、コドラート調査による各海藻類の湿重量の計測結果）を基に平均値として算出（添付資料P23～27参照：面積の算定根拠と同様の資料） 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf  【含水率】 87.8(%) 【含水率の算定根拠】 参考値：横浜ブルーカーボン事業におけるカーボン・オフセットの運用及び拡大に関する検討、山田ら（2017）P9表13「生コンブ」の含水率を参照 【含水率に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf

<p>項目4</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.9 【P/B比の算定根拠】 参考値：第3版磯焼け対策ガイドライン、水産庁（2021）P11コラム2-2-2表1コンブ類の平均値（1.5～2.3）を参照 【P/B比に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【炭素含有率】 30(%) 【炭素含有率の算定根拠】 参考値：ブルーカーボン 浅海におけるCO2隔離・貯留とその活用．堀・桑江（2017）P87表3-1を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen &amp; Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0285 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p>
------------	--------------	---

項目4	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 8.5(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 95%</p> <p>(面積：5.35567(ha)×評価：95%)</p> <p>【吸収係数の評価】 90%</p> <p>(吸収係数：1.5872×評価：90%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目4	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 人工リーフ造成前をベースラインとして設定する。人工リーフの周辺は砂地盤であり、人工リーフ造成前は、ミツイシコンブ等の海藻類の生育繁殖は確認されていないため、ベースラインを0t-CO2/年とする。</p> <p>【資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	7.267(t-CO2)

項目5	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】その他</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年04月01日～2024年03月31日
	③対象とする面積	<p>【面積】 5.35567(ha) 【面積の算定根拠】 【面積】 5.36(ha) 【面積の算定根拠】 人工リーフ法面の海藻類の実勢面積は、海藻類分布範囲を設計図面に照らし合わせることで推定した（添付資料P28参照）。【面積の資料】添付資料（面積・吸収係数に関する資料1）_BC量-海藻種別.pdf 【面積の資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 4.31 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 各人工リーフの付着状況調査結果（潜水による目視確認、コドラート調査による各海藻類の湿重量の計測結果）を基に平均値として算出（添付資料P23～27参照：面積の算定根拠と同様の資料） 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【含水率】 80(%) 【含水率の算定根拠】 参考値：横浜ブルーカーボン事業におけるカーボン・オフセットの運用及び拡大に関する検討、山田ら（2017）P9表13「生コンブ」の含水率を参照 【含水率に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p>

<p>項目5</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.31 【P/B比の算定根拠】 参考値：第3版磯焼け対策ガイドライン、水産庁（2021）P11コラム2-2-2表1コンブ類の平均値（1.5～2.3）を参照 【P/B比に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 参考値：ブルーカーボン 浅海におけるCO2隔離・貯留とその活用．堀・桑江（2017）P87表3-1を参照 【炭素含有率に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen &amp; Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p>
------------	--------------	--

項目5	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 1.033(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 95%</p> <p>(面積：5.35567(ha)×評価：95%)</p> <p>【吸収係数の評価】 90%</p> <p>(吸収係数：0.192979×評価：90%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目5	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 人工リーフ造成前をベースラインとして設定する。人工リーフの周辺は砂地盤であり、人工リーフ造成前は、ミツイシコンブ等の海藻類の生育繁殖は確認されていないため、ベースラインを0t-CO2/年とする。</p> <p>【資料】 02_添付資料（面積・吸収係数に関する資料2）_写真票（修正0913）.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.883(t-CO2)

合計のクレジット認証対象の吸収量	14.4 t
------------------	--------